

メリーゴーランド

平成 27 年 7 月 11 日、乳幼児用玩具のメリーゴーランド 2 組が、大阪の日本キューピークラブ様から横浜館に贈られました。長さ 90 センチと 80 センチの大型ですが、左 90 型には、ゼンマイ仕掛がありませんので自動回転できません。



早速、新入り 2 組のメリーゴーランドに、3 階の「映画・ALWAYS 3 丁目の夕日」コーナーの中からメリーゴーランド 1 組を加え、計 3 組を横浜館 1 階広間に展示致しました。従いまして、ご来館の方々に最初にお目に触れていただくセルロイド展示品が、メリーゴーランドということになりました。

「ALWAYS 3 丁目の夕日」および「続・ALWAYS 3 丁目の夕日」は、平成 24 年 1 月に封切られた映画で、同時期に日本テレビが金曜夜 9 時から 2 週にわたり放送して好評でした。



この映画の時代背景は、東京タワーが完成した頃の1958（昭和33）年に遡ります。埃が舞う未舗装の道路を挟んで、古本屋、駄菓子屋、貸本屋、煙草屋、バー、小劇場、自動車修理工場（鈴木オート）などが隣あう気さくな街です。その住民は、売れない小説家（茶川龍之介）、劇場の踊り子（小雪）、鈴木オート社長夫妻、集団就職の従業員、子供たち、スクーター往診の医者などです。生活の喜怒哀楽がドラマチックにコメディックに描かれています。この映画に、メリーゴーランドが2ヶ所に登場します。



（映画の一コマ）昭和35年が暮れていくとき、自動車修理の鈴木オート社長は、長男一平が生まれた時に撮ったビデオのテープを見て昔を懐かしむ。そのビデオには、一平の



誕生祝いに隣組から戴いたお祝い品（セルロイド製のメリーゴーランド）を妻（薬師丸ひろ子）が廻して遊んでいる姿が写っている。

（映画の一コマ）年が経って昭和39年になった。第1回東京オリンピック中継を見るために、街で唯一台、白黒テレビがある自動車修理工場に街の人達が集まった。結婚した茶川龍之介と小雪の夫婦もいました。

テレビ画面は、オリンピック行進が始まりました。皆の目がテレビに釘づけになります。そのとき、小雪の陣痛が始まったので大騒ぎになりました。

無事に男の児が生まれました。お祝いに、セルロイド製メリーゴーランドを贈られました。茶川が、メリーゴーランドを廻しながら赤ん坊のお守りをしています。



「ALWAYS 3丁目」の映画撮影が終わった時点で、メリーゴーランドやセルロイド製の化粧道具などが、所有者のセルロイドハウス横浜館に戻って来ました。

しかし又、貸し出されることになりました。今度の貸し出し先は、三越百貨店さんです。三越さんが《ALWAYS 三丁目の夕日》の催事を行うことになった

のです。日本橋の三越さんの「ALWAYS 3丁目の夕日」の催場に行きました。暗い個室に吊るされ、サーチライトに照らされたメリーゴーランドに大変な威厳を感じました。



ALWAYSのポスター、鈴木オートの手拭、3丁目の家々、電車とレールなどのプラモデルを販売していましたので買って帰りました。

三越さんは、交通会館、名古屋、大阪でも「ALWAYS」のイベントを開かれたようです。

メリーゴーランドは何時、どのようにして日本の市場に出現したのでしょうか。平凡社・大百貨辞典に、メリーゴーランドの由来について次のように記しています。

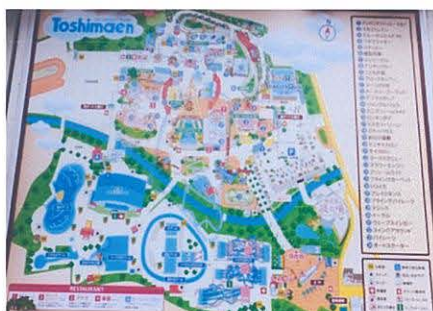
メリーゴーランド merry-go-round

動物や乗物の模型を回転する円盤に固定した遊戯機械。回転木馬とも呼ばれる。馬上試合に由来するスポーツの練習機。1860年ころフランスで考案され、しだいに優雅な遊びに変わったのが起源と考えられる。70年ころ、イギリスのサペッジ Frederick Savage (1828~97) が、蒸気機関によって円板を回転させ、クランクで木馬を上下させる装置のпатентを取り製作を開始した。

黄金時代を迎えたのは、20世紀初頭のドイツである。なかでもハッセ Hugo Haase が1907年に製作した<エル・ドラド>は、当時の技術と芸術の精華といわれ、アメリカを経て現在は東京の豊島園にある。日本の初登場は1903年大阪の第5回内国勸業博覧会で当時は快回機と訳された。常設端07年ころの浅草で、ついで12年同じ浅草のルナパーク、さらに花屋敷にも導入された。小説などに取り上げられた有名な木馬館は、18年に昆虫館が改装されたものである。

中藤保則

豊島園へは、池袋駅から西武線・豊島園行き 12 分。(10 分間隔で運転)。園内を石神井川が流れています。エル・ドラドは、豊島園にて 108 年前のままの姿で毎日運転されています。



エル・ドラドの彫刻は総てが木製、すべてが手づくりです。(倉庫に復元を待っている木馬も沢山あるようです)

回転台が 1 階 2 階 3 階になっています。写真・人が腰かけている所が 2 階です。エル・ドラドは、手造りのため馬の表情がそれぞれユニークです。

エル・ドラドは、機械仕掛けの芸術的乗り物として世界的に重要な文化遺産として 2010 年に日本機械学会から「機会遺産」に認定されました。これからは、世界遺産に認定される、ことになると思われます。



左の写真は、左側と右側から撮ったものです。セルロイドの回転木馬です。

関西の遊園地が閉鎖された時にセルロイドハウス横浜館に持ち込まれました。

現在、2F に展示しています。

回転木馬は、merry-go-round。乳幼児玩具のメリーゴーランドは、くるくる廻る日本製セルロイドです。再考いたします。(了)

2015年7月20日